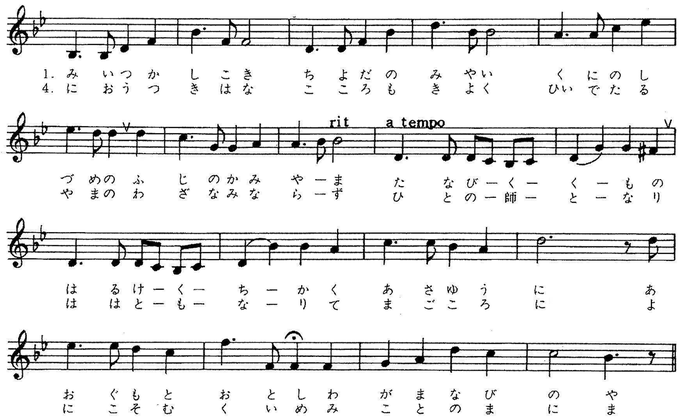
東京府立第二高等女学校校歌

（明治40年４月制定）



畠山　健　作詞
岡野貞一　作曲

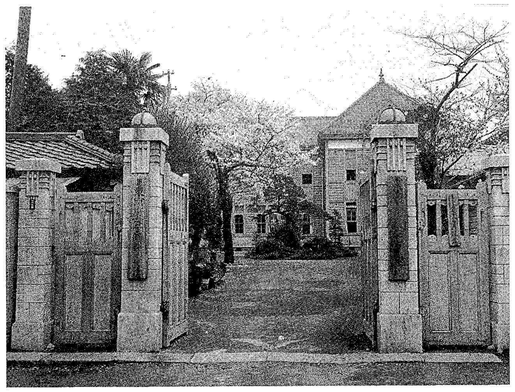
一、みいつかしこき　千代田の宮居
国のしづめの　富士の神やま
たなびく雲の　はるけく近く
朝夕に　仰ぐも尊し
我が学びのや

二、霞める空の　花のさかりも
千里くまなき　月のけしきも
上野はあれど　隅田はあれど
ゐながらに　眺めぞつきせぬ
我が学びのや

三、かかるめでたき　庭ふみならし
むつびかはして　生いたつ我等
精心（こころ）も技能（わざ）もいよいよみがきて
もろともに　世にこそ示さめ
女性（おみな）のかゞみ

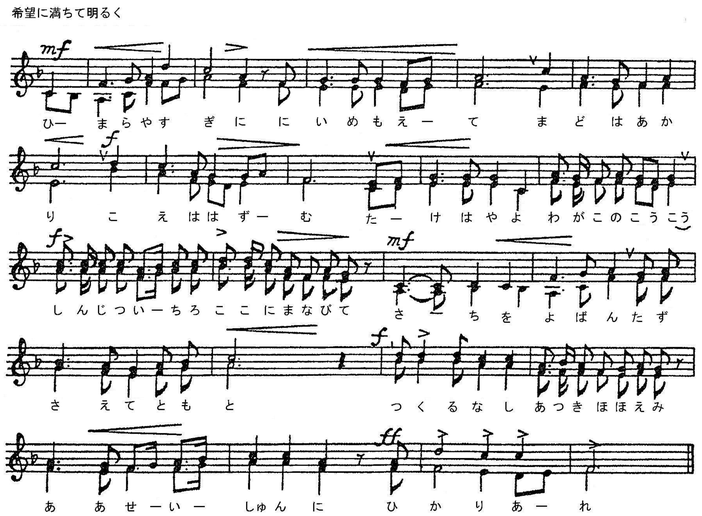
四、匂う月花　精心（こころ）も清く
秀でたる山の　わざなみならず
人の師となり　母ともなりて
まごころに　世にこそ報（むく）いめ
みことのまにま

作曲者　岡野貞一　〔1879-1941〕
『紅葉』・『おぼろ月夜』・『故郷』など文部省唱歌の作曲者。東京音楽学校（現東京芸術大学）出身、同教授。一級下に滝廉太郎がいた。小石川区富坂町二丁目（現文京区小石川二丁目）に居住。



東京都立竹早高等学校校歌

（昭和28年３月制定）



木俣　修　作詞
平井康三郎　作曲

一、ひまらや杉に新芽（にひめ）萌えて
窓は明り　声ははづむ
竹早よ　わがこの高校
眞実一路　ここに学びて
幸を呼ばむ　たづさへて友と
盡くるなし　篤き微笑
ああ　青春にひかりあれ

二、朝（あした）の空に風は通ひ
時計台は夢をさそふ
竹早よ　わがこの高校
清新潑剌　ここに汗して
理想に生きむ　おのがじし高く
築きゆけ　永久（とは）の平和（やはらぎ）
ああ　新人に力あれ

三、茜（あかね）の雲の果に清く
富士が嶺は　影と浮ぶ
竹早よ　わがこの高校
協同親和　道を踏まへば
いよよ映えむ　かがやける伝統
いさぎよし　三つの春秋（はるあき）
ああ　若人に栄あれ

作詞者　木俣　修　〔1906-1983〕
歌人・国文学者。東京高等師範学校（現筑波大学）国文科卒。昭和女子大・実践女子大などの教授を歴任。
北原白秋に師事し、白秋の主張した新浪漫主義を実践した。白秋研究・近代短歌史の研究に尽力した。

作曲者　平井康三郎　〔1910-　〕
『平城山』、『ゆりかご』、『とんぼのめがね』などの作曲で知られる。東京音楽学校（現東京芸術大学）卒。ＮＨＫ嘱託となって、交響曲・国民歌謡・ラジオ歌謡など幅広い作曲活動をし、戦後最初の音楽教科書の編纂に加わる。